

社会へのスタートライン、準備は進んでいますか？

アブドゥハン・ベーナディ
(九州産業大学・情報科学部教授)



皆さん、大学生活は充実していますか。大学生活、楽しむことも大いに結構ですが、社会へのスタートももう間近です。そのための準備はできていますか。社会に出るための準備、それは、自分で新しいことを学ぶ姿勢を作る、ということだと思います。

私が授業をしていて悲しくなるのは、授業への取り組む姿勢ができていない人が多々あることです。授業中にパソコンで他のサイトを見ていたり、携帯電話を操作している、小テストのヒントを説明しても聞いていない、全く復習しているように見えない答案、前の日だけ勉強したというような答案・・・もちろんきちんと勉強している人もいますが、ただ授業に出席して試験を受ければ何とかするというような気持ちでいる人も少なくないように思います。

勉強に力が入らないのには、この勉強がどう将来につながっているのか、すぐには想像できなくて、目の前の複雑な仕組みを理解しようという気持ちが湧かないということがあるでしょう。たしかに、どんな仕事をするかまだ分かりません。情報関連と言っても幅広いので、こんな難しいことを考えて覚えていく必要があるのだろうかと思ってしまうこともあるかと思います。しかし、この学部で学ぶことはどれも情報科学の基礎となる知識です。1つの科目である分野の土台となる知識の一部を固めることとなります。その知識を講義と宿題と演習とで少しずつ固めていって、試験に合格すれば、自信になります。その自信がまた次の挑戦に向かう力になります。そうして得た情報科学の基礎は、後でどの仕事に就いても、考え方・学び方の基礎として皆さんの中に残っていくのです。

皆さんは日本のバブルがはじけた後に生まれ、日本がそれまでどのように発展してきたか、その後どのように苦労して現在まで経済を回復させてきたか、深く知らないと思います。皆さんにとって現在の日本の生活は安定した、ずっと以前からいつも存在するものでしょう。そして、この平和で安全で便利で清潔な生活を当然のものと感じていることでしょう。しかし、その生活を支えてきた日本の経済的な発展は、東北大震災といった自然災害に見舞われることも、近隣諸国との政治的摩擦や領土問題、経済的な摩擦、資源獲得競争、中東の紛争の影響による石油高騰など、あらゆる影響を受ける可能性があります。その不透明な世界を歩いていくのが皆さんなのです。

日本は輸出によって経済を支えています。それは、この小さな、しかし、優れた技術を生み出せるこの国の宿命です。そして、この国で働く者として、皆さんはこれから多かれ少なかれ海外との関わりを持たずにはいられないことでしょう。その時、見知らぬ海外で、新しい人と仕事をしていく際に役に立つのは、人間としての常識と仕事の分野での知識、それから、それを活用するコミュニケーション力、それらを働かせる気力・胆力です。私は外国から来て日本で生活する者として、もっと皆さんが幅広い視野を持ち、心を開いて、英語力を鍛え、世界の多くの人と積極的に関わってほしいと思っています。

その時、英語に関して言いたいのは、完全を目指さなくていいということです。ネイティブスピー

カーのようにきれいな英語を話せなくてもいい、自分なりの英語で、少々発音がうまくなくても気にしなくていい、ということです。

現在、グローバル化する世界にあって、英語を話せる人が増えていると思われませんが、そのうち英語を母語としない人の人口のほうがずっと多い。皆、母国語のなまりのある英語で堂々と自分の意見を言って仕事をしています。アメリカ本土でも英語を母語としない人口がかなりの割合を占めています。皆さんも発音や文法に少々自信がなくても気にすることなく、よく相手の話を聞き、理解して、言いたいことは口に出すという習慣を作っていくてください。

皆さんが、大学生活で知識とスキルを自分なりに獲得し、自信を持って社会へ旅立つことができますように。

最後に私の好きなヘンリー・ワーズワース・ロングフェローの言葉を引用します。

**“The heights by great men reached and kept were not attained by sudden flight,
but they, while their companions slept, were toiling upward in the night.”**

(高みに上り、そこに留まるためには、忍耐、根気、決断、献身、そして持続的な勤勉が必要である。)